

4. 久慈から八戸へ 車窓より眺める久慈・八戸周辺の砂鉄浜 2014.6.9.

八戸線車窓から眺める砂鉄浜 洋野町有家海岸 & 砂鉄浜 八戸 種差海岸



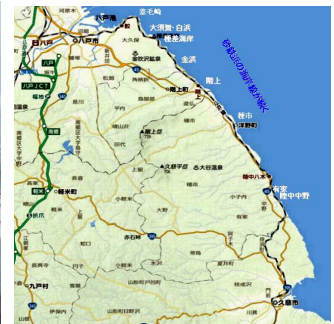
6月9日 東北 三陸沿岸の Iron Road Walk 3日目（最終日）相変わらずの霧雨
久慈から八戸へ JR 八戸線沿線の砂鉄浜を訪ねました

4.1. 砂鉄の宝庫 八戸・久慈周辺の砂鉄 概要

その周辺の沿岸には砂鉄が堆積する砂鉄浜続く

4.2. 八戸線 車窓から眺める砂鉄浜 洋野町有家海岸.

4.3. 砂鉄浜 八戸 種差海岸を歩く



9:35 普代から三陸鉄道で 霧雨の久慈駅着 三陸沿岸 Walk 3日目
久慈のたたら館はすでになく、江戸時代八戸藩南部の鉄素材の重要な生産地「大野鉄山」の地で、砂鉄鉱床の露頭を見られるという内陸部の「洋野町大野」へ行きたかったのですが、どうも無理。 一つ列車を逃すと、次の列車は 12:53 で、八戸線沿線の砂鉄浜に降り立てない。神戸まで帰れない。また、旧たたら館資料の展示があると聞く民俗資料館や砂鉄浜の侍浜海岸などへ霧雨の中に行くには ちょっとアクセスが心もとない。
今、八戸線に出れば、9時47分八戸行の列車に間に合うので、今回は残念ながら久慈 Walk を あきらめ、そのまま八戸へ向かうことにしました。



へ理屈は別にして、久慈から八戸にかけては、日本でも有数の砂鉄の産地であり、江戸時代 南部・八戸藩の南部鉄器製造を支えた地であり、浜にも大量に砂鉄が堆積すると聞く。そんな砂鉄浜は、ぜひ見ておきたい。

以前乗車した時の記憶はないが、久慈から八戸へは 砂鉄を埋蔵する鉱床が南北に延びる内陸部から沿岸部へ 広い海岸段丘が続き、海に接する浜が点々と連なっている。車窓からはそんな砂鉄浜が見え、浜に堆積した砂鉄が見えるはずだと。

また、名前だけは何度か眼にした八戸の種差海岸 今度は是非この種差海岸の砂鉄浜も歩いてみたい。

八戸まで出れば、連絡悪くても新幹線八戸駅へは何とかなると。

そうと決まるとあまり時間がない。20数年前「Iron Road・和鉄の道」の名前が浮かんだ久慈の駅前の写真を撮って、そのまま八戸線の列車に乗り込み、久慈を後にして 八戸へ。

海岸線を走る沿線にいれば、風来坊 どこで降りてもまたすぐに列車に戻れるので、気楽である。

岩手県側に属する久慈と青森県側に属する八戸 どちらも「南部」、 でも 明治の廃藩置県で両県に分断された

1992年に山田町の上村遺跡で、8世紀後半と見られる製鉄遺跡が発見されて、三陸地方の古代製鉄が注目されるようになり、釜石から宮古にかけての三陸沿岸では、古代の製鉄遺跡が数多く見つかった。

しかし 埋文や資料館などへ直接訪れなかったこともあるのですが、さらに北の普代そして 久慈・八戸地域では古代製鉄関連について、ほとんど聞けなかった。

特に製鉄原料となる大量の砂鉄がある八戸・久慈地域で、製鉄業が盛んになるのは江戸時代であり、同じ三陸といっても、釜石から宮古の地域と久慈・八戸では 地形的な問題や古代中央へのつながり方の相違などによって、製鉄技術の伝播の様相が違ふように旅の中で思えてきて、気にかかっている。この地域の暮らしの中で、鉄の需要がどうだったのか？なども重要な鍵でしょうが、今回残念ながら今回調べられなかった。

また、「南部鉄」とはよく聞けるのですが、全国的に広がりを持つのは どうも南部の特産として、南部盛岡藩・八戸藩が奨励した江戸時代以降であると聞く。

久慈の旧たたら館が新しくなった久慈市歴史民俗資料館や江戸時代 繁栄した大野鉄山がある久慈の内陸部へ行けばもっと クリアーになるのでしょうか、次回への宿題と。

また、今陸奥・青森県に属する八戸はもともと南部の地域であり、私にとっては今も青森と岩手県の境が ごちゃになる。イメージ的には北上山地から流れ出る北上川が南に流れる岩手県 そして 北に馬淵川・新井田川が流れる地域が青森県とわかっているのですが、かつてはどちらも「南部」そして この川の流れもそう簡単にはなっていない。

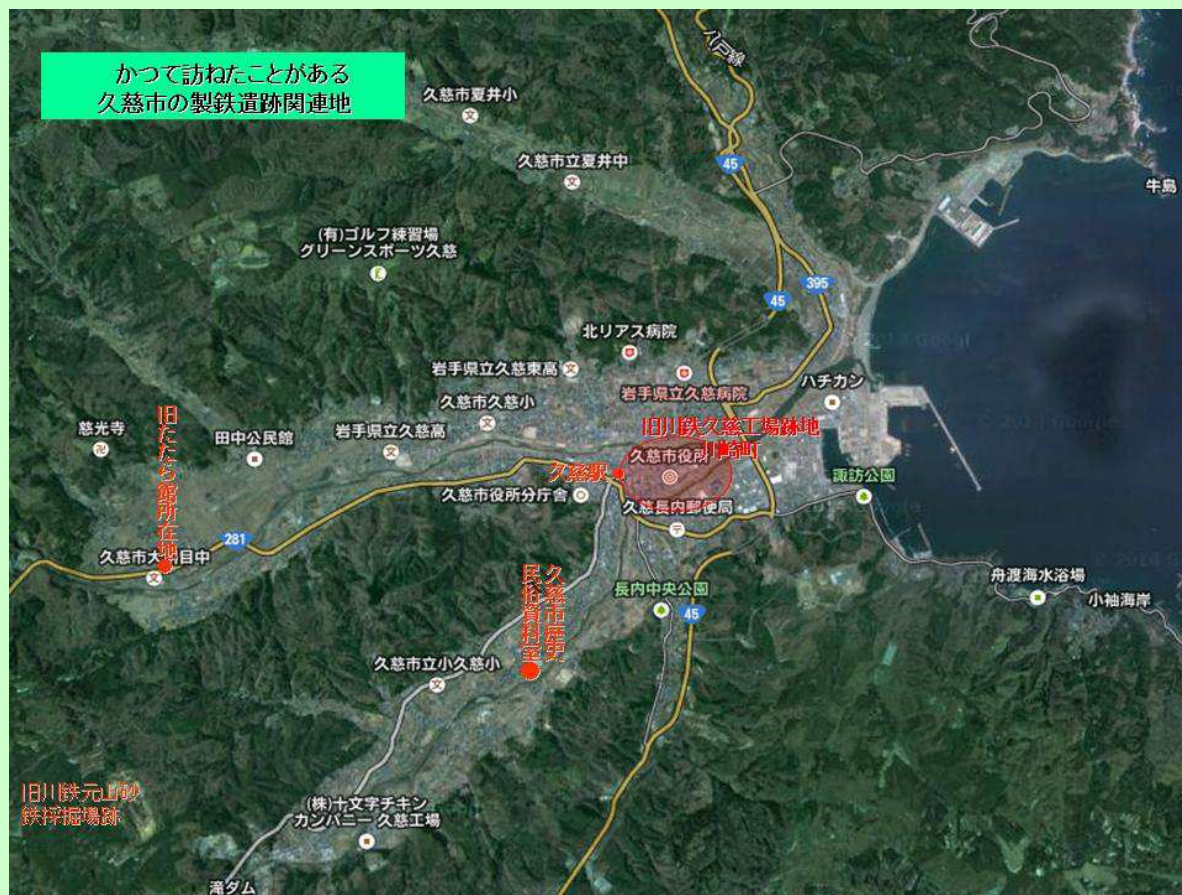
この八戸線が走る沿岸部も岩手県の三陸沿岸の久慈から、県境を越えて青森県 陸奥の八戸へ伸びているが、沿岸部では境する大きな山も川もなく、でもどちらも俗的には[南部]であるという。

八戸が、北の津軽に支配をけるけるようになるのは、明治の初年 戊辰戦争で 官軍側の津軽藩に 幕府側に加わっていた南部藩が負け、背反地検の際に南部藩の北部一部が青森県に編入されたという。

元々南部藩発祥地は北部の南部町であり、盛岡は後に藩の居城を移して中心になった場所である。

八戸・久慈についていうと 今も 文化的には八戸・久慈はやはり同じ「南部」の文化である。

まだ まだ 面白い三陸沿岸である



1. 砂鉄の宝庫 久慈・八戸周辺の砂鉄 概要



日本有数の砂鉄の宝庫「久慈・八戸」 その周辺海岸部は海岸隆起によって海底が持ち上がってきた広大な海岸段丘 平坦地形が広がっている。ここでは北上山地から流れ出た砂鉄が海底に堆積し、その海底が隆起して豊富な砂鉄資源を形成し、沿岸の浜には砂鉄が堆積する砂鉄浜が点々と続く。

ここでは 古くから この広大な台地は牧場として「南部馬」を育ててきた。また、江戸時代には この豊富な砂鉄資源を使って たたら製鉄が栄え、名産「南部鉄・南部鉄器」の一大産業が興り、その後の製鉄業繁栄をもたらしてゆく。

昭和の時代には この豊富な砂鉄資源を使って、先進的な製鉄技術である海綿鉄の量産工場 川崎製鉄久慈工場が久慈に建設され、銑鋼一貫の大製鉄所時代が花開く昭和40年代まで生産が続けられた地であることも忘れてはならない。

砂鉄資源として南部馬を育てた久慈・八戸周辺海岸部の平坦な地形 海岸隆起によって海底が持ち上がってきた海岸段丘



待浜町や三輪半島をはじめ、海岸部にはなだらかな台地が広がり、古くから牧畜に利用されてきました。この地形は、数十万年前の海底が隆起して、高台に平坦な地形が残されたものです。



隆起の痕跡、海岸段丘

波の浸食により平坦になった海底が、隆起することで台地上に平坦な地形が生まれます。これを繰り返して作られた階段状の地形が海岸段丘です。海岸段丘上では農業や酪農などが営まれています。

■海岸段丘に関する観測ポイント
p.16 北野野
p.23 川崎製鉄元山砂鉄採掘場跡

北上山地から流れ出た砂鉄が海底に堆積 その海底が隆起し、豊富な砂鉄資源を形成

海底の隆起が作った砂鉄資源

元山砂鉄採掘場跡は川崎製鉄久慈工場が製鉄の原料となる砂鉄を採掘した場所です。この採掘場の砂鉄はドバ⁽¹⁾という海底の隆起⁽²⁾により誕生した砂鉄鉱床です。また久慈工場はたたら製鉄の歴史に残る製鉄技術を導入した先進的な工場でした。

海底の隆起が作った砂鉄鉱床

元山の砂鉄層は、標高約250mの高台にあります。この砂鉄層は、かつて海底に堆積した砂鉄が隆起により山の上に持ち上げられたものです(採掘場のある場所は海岸段丘といえます)。その埋蔵量は、国内最大規模とされています。この砂鉄層は三陸海岸の隆起が生んだ大地の遺産なのです。

砂鉄層の成り立ち イメージ



久慈周辺は砂鉄(ドバ・濁鉄鉱)の大産地 この砂鉄を利用した近代的な海綿鉄の量産
この砂鉄を使って昭和40年代まで海綿鉄を製造した川崎製鉄久慈工場

久慈周辺は砂鉄(ドバ・濁鉄鉱)の大産地
この砂鉄を使って昭和40年代まで近代的な海綿鉄の量産製造した川崎製鉄久慈工場があった久慈地区。
昭和42年(1967年)川崎製鉄久慈工場閉鎖後、その工場跡地に久慈市役所が昭和49年(1979年)に移設され、それから40年、工場跡地は行政、文化、ショッピングの新開地・川崎町として発展し現在に至っている。



2. 八戸線 車窓から眺める「砂鉄浜」 洋野町有家海岸周辺



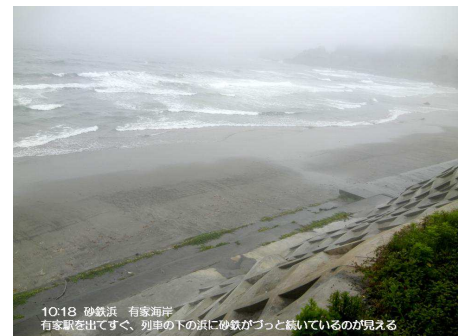
久慈よりJR八戸線
久慈川渡って海を指す
一番北の海女さんに
砂鉄に琥珀も掘った跡

… 久慈
… 陸中夏井
… 侍浜

山より下り来て中野より
海岸段丘の上部沿い
洋野町中心種市は
十代目柏戸出た町に

… 陸中中野、有家
… 陸中八木、宿戸
… 玉川、種市
… 平内、角の浜

<JR 八戸線沿岸の砂鉄や海岸段丘を織り込んだ鉄道唱歌(部分) 現代社会教育鉄道唱歌 北リアス・八戸篇(部分)より>



砂鉄が堆積した浜が続く JR 八戸線 洋野市 有家駅周辺の海岸



北三陸の砂鉄浜 八戸線 洋野町有家海岸 2014.6.9.



有家駅一宿戸駅間の砂鉄浜 宿戸駅のある丘が見えている 2014.6.9.

北三陸の砂鉄浜 JR 八戸線 洋野町有家海岸

3. 砂鉄浜 八戸 種差海岸を歩く 砂鉄浜 白浜・大須賀浜から種差海岸の北端の岬葦毛崎へ

10:35 洋野町種市駅着 三陸沿岸 岩手県の最北部「南部もぐり」潜水技術とウニ漁で有名な街で 種市高校にはこの「南部もぐり」を継承し、工業系の潜水技術を習得できる学科海洋開発科がある。

平内駅・角の浜駅を過ぎると青森県階上駅で 八戸はもうすぐであるが、八戸線は種市から北では海岸より少し陸地側を走るので 沿岸の浜はよく見えない。

10:46 階上駅着

青森県三戸郡階上町 大きな山を越えるでもなく 川を渡るでもなく ここからはもう 青森県 ウニいちご煮の里の案内板が見える。

階上駅の次は大蛇駅 10:57 着

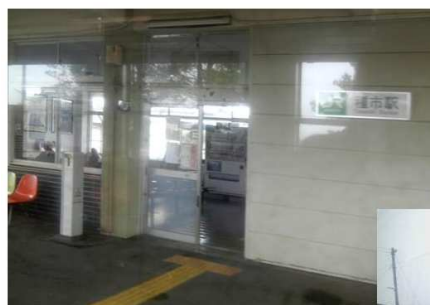
そしてその次は八戸市に入って金浜駅 海岸線が見

えないのでよくわからないが、「大蛇」「金浜」と続くと製鉄関連地名なのか・・・と思えてくる。

でも、「大蛇」は古くからある地名をそのまま駅に。でも 由来はよくわからないようだ。「金浜」と聞くと砂鉄浜に違いない。

でも 浜の様子がよくわからず、どこで下車しようかと迷いながら、種差海岸の「白浜駅」で下車。

(当初は鮫駅まで行って バスで種差海岸に戻るつもりでしたが・・・)



10:35 種市駅 岩手県三陸沿岸最北部

洋野町種市
「南部もぐり」潜水技術とウニ漁で有名な街で
種市高校にはこの「南部もぐり」を継承し、工業系の潜水技術を習得できる学科海洋開発科がある
種市の平内駅・角の浜駅を過ぎると青森県階上駅で 八戸はもうすぐである

八戸線は種市から北では 海岸より少し陸地側を走るので 沿岸の浜はよく見えない



岩手/青森の県境 階上岳 (岩手県では種市岳と呼ぶ)



10:46 階上駅 青森県三戸郡階上町
ここからはもう 青森県
ウニいちご煮の里の案内板が見える



階上駅の次は大蛇駅 10:57着。そしてその次は八戸市に入って金浜駅
海岸線が見えないのでよくわからないが、「大蛇」「金浜」と続くと製鉄関連地名なのか・・・と思えてくる。
でも、「大蛇」は古くからある地名をそのまま駅に。でも 由来はよくわからないようだ。
「金浜」と聞くと砂鉄浜に違いない。でも 浜の様子がよくわからず、下車しようかと迷いながら、種差海岸の「白浜駅」で下車。(当初は鮫駅まで行って バスで種差海岸に戻るつもりでしたが・・・)





陸奥白浜駅で下車して 種差海岸の砂鉄浜 白浜・大須賀浜を歩く

大蛇駅をでると岩手県三陸沿岸から青森県陸奥沿岸に入るが、特にヶ市議が変わる出なく、県境を越えたとの思いはなし。そして、金浜駅をでると まもなく緑の海浜公園によく整備された海岸線が見えてきて、八戸の観光地「種差海岸」の一角に入ったと。鮫駅までゆかず、近くで降りて 浜を歩いてみようとする。

11:10 陸奥白浜駅下車 駅は無人駅で駅舎もなく、細長いプラットホームが一本あるだけ。浜も見えず。

一瞬戸惑ったが、ホームのすぐ下に種差海岸遊歩道案内の看板が浜へ降りてゆく道を教えてくれた。

浜に砂鉄があるだろうか…… 駅を出て 踏切を渡ると正面向こうに広い砂浜が見えてきた。



種差海岸の砂鉄浜 白浜・大須賀浜

浜へ降りるとうっすら白砂に砂鉄が混じって見える。砂鉄はあまり多くはないが、美しい砂鉄浜。小さな川が流れ込む河口周辺の砂浜では 幾重にも重なった砂鉄の文様が見られ、また、陸側には海岸段丘の崖に沿って美しい松林が続き、美しい風景を作っていました。長い大須賀の浜から、松林の中にある遊歩道へ上がって さらに北 種差海岸北端の葦毛崎へ。



大須賀浜の北端から 観光道路を北へ葦毛崎へ



種差海岸の北端葦毛崎の岬手前から歩いてきた南側の種差海岸を振り返る 2014.6.9.



種差海岸 大須賀の浜の北端から種差海岸北端で 海岸に続く岩場を眺めながら
北端の岬 葦毛崎へ 2014.6.9

種差海岸の絶景ポイント 葦毛崎 周辺

また、土砂降りになりましたが、観光道路を歩きだして、
30 分ほど 散策路を下ってゆくと数々の草花が咲く海岸。
岩礁の浜の向こうに霧雨に煙る葦毛崎の岬。
ちらほら 黄色のニッコウキスゲも咲き始めていました。
満開の時には素晴らしい景色になるのだろう。



岩礁が続く美しい景色をたのしみながら、小さな尾根を乗り越すと種差海岸の北端 葦毛崎でした。

12:03 葦毛崎到着。

雨がきつく 視界も開けないので、葦毛崎の展望台まで行くのをやめ、そのまま鮫駅へ向かう。

途中バスが来ないかと振り返りつつ歩きましたが、ダメ。 もう鮫駅まで歩く覚悟を決めました。



12:03 土砂降りの雨 種差海岸北端の岬 葦毛崎



12:03 土砂降りの雨の中 葦毛崎を回り込んで西側の沿岸を鮫駅目指して下ってゆく



土砂降りの雨の中 葦毛崎を回り込んで西側の沿岸を鮫駅目指して下ってゆく

12:25 岬を回り込んで 街並みが続くところまでに下りてくる。道脇に八戸線の線路も見え、八戸線もこの岬を並行して回り込んできたとわかる。どこまで歩くのかとちょっと心配になっていましたが、ウミネコの繁殖地蕪島 そして八戸の港が遠望でき、八戸線鮫駅も近いと知れ、やれやれです。

12:40 鮫駅到着

駅前には大きく口を開いた鮫のモニュメントが出迎えてくれましたが、ひっそり静かな駅前。

13:40 まで、八戸行の列車がない。食事でもと鮫街の通りに出ると十字路の際にバス亭があり、13 時過ぎに 八戸行のバスが来ると教えてもらって、そのままバスに乗り込んで八戸の市街地へ。八戸の中心街でバスを乗り継いで 約 40 分ほどで八戸駅でした。



14:00 八戸駅着 これで今日 神戸まで帰りつけると…。

八戸は是川縄文遺跡や風張縄文遺跡などを訪ねたり、青森の帰りにも立ち寄ったことがある知った街並み。

でも 名前は知っていても 行ったことがなかった種差海岸。

パンフレットで見た種市岳や種差海岸の美しい景色に今回は是非立ち寄りたいと。

土砂降りの雨になりましたが、それはそれで初めて種差海岸を歩いてラッキー。

駅前の食堂ビルに入って遅い昼飯。霧雨の降りしきる街を眺めながら、長かった今日一日 八戸線に乗っての砂鉄浜 walk を振り返る。

20 数年前にこの八戸線にも乗ったのですが、全く記憶なし。八戸線沿いの砂鉄浜 そしてそれらを形成した海岸段丘の遠い太古の歴史も知って、また、新しい三陸沿岸の Iron Road のイメージも。

今回の旅ではどうしても行けず、次回廻しにした江戸期南部鉄を支えた内陸部の九戸のたたや洋野町大野の大野鉄山。是非 もう一度 久慈・八戸へと。



今回は 3 日間のフルスピード三陸沿岸 Iron Road の旅 結局 3 日も霧雨の中の訪問でしたが、これも三陸らしい。

やっと来れた震災後の三陸沿岸の Iron road でした。

土砂降りの駅前のビルで「ビール もう一杯」と満足感にしたって、新幹線へ。

三陸沿岸 街そして生活復興はまだ これから。今回垣間見れた三陸沿岸の姿はしっかり焼き付けた。忘れない。

次に訪れた時には さらに活力のある人々の笑顔・生活が見られることを願って、これからも忘れず、応援してゆきたい。

